

第2回 都市計画審議会 意見要旨

開催日時	令和6年1月26日（金）15時00分～17時00分
開催場所	瀬戸内市役所2階大会議室
委員 意見要旨	<p>(1) 都市計画の基礎的な調査の結果について・・・資料1、2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な工場ができているにも関わらず、よそから来ている人が多く、よその都市の雇用を増やすだけである。今回のまちづくりでは、どういうまちが住みやすいか、どういう施設をつくれば若い人たちが住むか考え、若い人が住んでくれるまちにしてほしい。 (事務局)⇒まちづくりの検討に関して庁内に検討チームを作っている。チームは、子育て世代など若手職員中心で構成している。どうしたら子育て世代が住みたくなるかという視点での意見も頂いてまとめている。 (事務局)⇒通勤での流入者の受け入れについては、定住促進の観点からも、邑久西地域での開発を無秩序ではなく、適切に受けとめていく方法を検討している。マスタープランの中でも検討していく。 ・個人の財産権などの規制をかけて都市計画を進めていくことになるのに、良い結果にならないければ、所有者にもご迷惑をかけることになる。若い人、住民の方にどういうまちが良いか聞いたほうが良い。 ・若い人が住んでくれるようなまちづくりを進めていくと、都市の中心部に人を集めようとするようになるため、中心部と周辺部で大きな格差が生まれてくる。周辺部の方の生活圏も考えてもらいたい。 ・国の補助金を活用してまちづくりを進めるということは、コンパクトシティで効率的なまちづくりにしないと、補助金が下りない。補助金に頼ったまちづくりばかりをするのではなく、都市も地方もうるおいのあるような豊かなまちづくりを考えないと偏ったまちづくりになるのではないか。 (事務局)⇒地域に合ったまちづくりを進めていかないといけないと認識している。4つの地域それぞれの個性をどのようにのばすかに注力し検討している。すべてを都市計画の補助金に頼らないといけないということはないと考えている。地域に合っているものは何なのかという視点で取組を進めていきたい。

<p>委員 意見要旨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトシティの話は、基本的には、都市地域の中の話である。コンパクトシティでの問題は、市街地の周辺に無秩序に広がっている農地を侵食していくスプロール的な開発を抑えないといけない点にある。山間部の開発を抑えることが目的ではない。都市地域と山間部で分けて考える必要がある。 <p>(事務局)⇒既成市街地内の白地の農地については、農地の集積が難しいという話もあることから、人口密度等も見ながら用途地域の指定を検討したいと考えている。</p> <p>(2) 市のまちづくりの検討状況について・・・資料3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局としての今後のスケジュールを示されないと何とも言えないと思う。 <p>(事務局)⇒現時点で、明確にスケジュールを示すことができる状況ではない。国の同意も必要で、県との調整もかなり必要である。次回の審議会の際に細かいスケジュールについて示したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方への意見聴取を実施していくことになると思うが、年度末で、執行部の体制、スケジュールに余裕があるのか懸念している。また、人事異動もあるかもしれないので心配している。 ・スケジュールの変更で、都市計画区域（案）の決定が遅れることになるが、最終的な都市計画区域、用途地域の指定も遅れるのか。 <p>(事務局)⇒国との協議は、できる範囲で進めていくことになる。県は、都市計画区域、用途地域の指定の時期をずらすことが無いよう考えてくれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の都市計画の理解の熟度を上げるのであれば、全体のスケジュールも延ばしたほうが良いのではないか。 <p>(事務局)⇒全体のスケジュールを延ばすことは今のところは考えていない。マスタープランを作成していきながら都市計画区域を検討したほうが、全体像が見やすくなると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度、都市計画区域（案）を早めに出し、課題などを示したうえで、修正の期間を長く設けたほうが良いのでは。
--------------------	--

<p>委員 意見要旨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中身が詰まっていない状態で都市計画区域を決めてしまうのは、中身が見えていない状態で箱を固めることになる。中身が見えていない状態で箱を固めてしまうのは、後々困るのでは。まずは中にどういうものを入れるべきかということをしかりと見極める必要がある。 ・都市計画区域を決めてから中身を検討していくという考え方でいくと、スケジュールが止まった感じになるが、中身のほうを先に進めていくという状態になるので、検討が停滞するわけではないと思う。 ・正攻法で検討するといろいろなマクロな情報が入り、よくわからなくなってしまう場合がある。例えば、都市公園にターゲット・テーマを絞って都市計画区域を検討してみるのもどうか。 ・全体のスケジュールも延ばさずに、都市計画区域を指定するのであれば、都市計画区域（案）の検討を急がないといけない。急ぐ必要がなければ、全体のスケジュールを延ばす必要があると考えている。 ・瀬戸内市も県の指導のもとに動いている。県のほうも枠をつくりつつあるとは思いますが、市民の意見を吸収しながら進めるほうが良いのではという、非常に良い提案を頂いている。我々もそれを受けて、まずは、必要なところを詰めて、同時並行でできるだけ早くできるようにスケジュールを組めば良いと考える。 ・瀬戸内市に都市計画を導入するという事は、このタイミングで非常に大きな転換をしようとしており重要なことである。のんびり時間をとってすれば良いわけではないが、無理に早く決めるのも本来はふさわしくないと思う。 ・市民は、この計画について心配の声が多い。市民に分かってもらえる方法で説明会を開催してほしい。 <p>(事務局)⇒国土利用計画の方針や、都市計画導入の経緯、都市計画制度、コンパクトシティの方向性等を説明する予定である。また、まちづくり構想について、市民から意見を拾いあげたい。説明会は、まず3月に実施したい。地域は4地域あるため、まわり方は検討中である。</p>
--------------------	---

<p>委員 意見要旨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タウンミーティングを知らない人が多々いる。そういう人の中に若い人が多いと思われる。興味がない人をどうやって呼ぼうとしているのか。 ・コンパクトシティとすることによる大きなデメリットはあるのか。市民が困るようなデメリットがあるのであれば、しっかり説明する必要がある。 ・構想図の線が隣接する都市計画区域とつながっていないパターンがよくある。隣接している市町がすでに策定している都市計画マスタープランがあるので、隣接する市町のまちづくりの状況を踏まえて検討するのが良い。 ・市街地の中でも地域コミュニティを発揮していると思う。まちづくり構想について、市街地においてもコミュニティの拠点づくりを記述してほしい。 ・市がたたき台を作って説明会を開いたほうが良いと思う。ただ、現時点の資料はわかりにくい。都市計画を導入することによって解決しなければならない課題や、都市計画を導入してできること等の具体例が2、3個あればわかりやすくなるのではないかな。 ・どうやって説明会に人を呼ぶかしっかりと検討する必要がある。 ・線引きする場合と線引きしない場合で、メリット・デメリットが大きく変わってくる。線引きする、線引きしないは、どのタイミングで決められるのか。 (事務局)⇒線引きする、線引きしないかについても、県が決めることになる。県の協議の進捗に合わせて説明させていただく形になる。 <p style="text-align: right;">以上</p>
--------------------	---